

第 37 回国際養蜂会議 アピモンディア 2001

10 月 29 日～11 月 1 日
南アフリカ共和国
ダーバン

セカンドサーキュラー

アピモンディア国際養蜂会議は隔年で開催される代表的な養蜂関連大会である。ミツバチに直接、間接の関わりを持つ人々が世界から集まり、アイディアや経験を話し合い、人間として、専門家として、研究者としての養蜂家と知り合う貴重な機会となっている。国際養蜂会議は、開催国の養蜂業発展を促して、その国の農業全体に寄与し、また開催国の養蜂家の経験から世界の養蜂家が学ぶことをめざしている。APIMONDIA 2001 は南アフリカ共和国で本年開催される最大の農業関連国際会議である。

南アフリカ養蜂の背景

南アフリカの GDP 中 21 億ランド (約 315 億円) がミツバチ関連産業から生成されている。これは農作物生産がミツバチのポリネーションに大きく依存するためである。ケープ地方ではリングとナシの花粉媒介用に 18,000 群、また夏期に降雨のある地域でヒマワリのハイブリッド種子生産用に現在 2 万群以上が使われている。ハチミツ、蜂ろうその他の養蜂生産物

は 6 千万ランド (約 9 億円) である。南ア国内には 3 千人以上の養蜂家がいる、9 万群を管理している。約 1 万人を直接雇用し、養蜂生産物の包装、販売業界さらに機械、器具、装備など養蜂関連生産現場でも雇用を生んでいる。

南アフリカ在来のミツバチはアフリカミツバチ (アフリカ高地ミツバチ) *Apis mellifera scutellata* とケープミツバチ *A. m. capensis* の 2 亜種である。両者は長い間地理的に明確に分離し、その中間に雑種が見られる地帯があった。しかし 1991 年にケープミツバチが高地ミツバチ分布域に不用意に持ち込まれた。ケープミツバチ独自の性質から、2 亜種の蜂群が近接して飼われると隔離は難しく、養蜂企業が飼養する高地ミツバチ群の大半がケープミツバチに侵入され、破壊され続ける事態となった (関連記事は本号 p. 49-56 に掲載)。高地ミツバチ分布域を再び自然な隔離された状態に回復しうるだけ十分な量の、純系を維持、育種していくことが、現在養蜂家にとって極めて重要な課題の一つとなっている。

南アフリカの村落地域の養蜂振興をめざしていくつかの開発計画が現在進行中である。貧しい地域で住民が切実に求めている新たな現金収入が養蜂により得られ、栄養状態も改善される。これまであまり注目されなかった、ハチミツの薬理効果の利用も期待されている。

アピモンディア 2001 は、農作物生産に不可欠な養蜂産業の興隆をめざし、また持続可能な、適正技術を用いる村落養蜂の基礎を確立

アピモンディア 2001 大会長メッセージ

世界随一の多様なハナバチ類を誇る国に皆様をお招きする。南部アフリカには様々な単独性のハチ、亜社会性のハチから、複雑な社会を持つミツバチまで約 4000 種のハナバチが生息している。またこの地域には少なくとも 2 つの在来ミツバチ亜種、すなわちケープミツバチと高地ミツバチが分布する。ケープミツバチは働き蜂が産卵しても、雄ではなく雌が生まれるという際だった特徴でよく知られている。また、アフリカ蜂化ミツバチがアメリカ大陸で誕生する、原因となった特性を持つものが高地ミツバチである。我が国ではこの 2 つの在来種ミツバチを用いた養蜂産業が順調に発展しており、その利用、管理方法などは世界の同業の方々に大いに興味を持っていただけるものと確信する。

本大会は、世界の養蜂企業で広く使われているセイヨウミツバチ各系統とは際だった違いを持つ、アフリカのミツバチを直接体験できる得がたい機会であり、アフリカ大陸ではじめてのアピモンディアでもある。多くの皆様のご参加をお願いしたい。南アフリカ・ダーバンでおめにかかりましょう。

(プレトリア大学 ロビン・クルー教授)

し、村落社会の生活の向上も目標とする。

関係組織

南アフリカ養蜂企業評議会 (SABIE) が国内の2大養蜂団体、すなわち南ア專業養蜂家組合と南ア養蜂農業協会連合の調整を行う。各団体とも経営安定した独立の組織で、産業構造整備、法規制、行政対策、政府各組織との折衝など、国内養蜂産業の振興、普及に努力している。SABIE は諸外国との研究、研修、振興事業、連携などを奨励している。

また評議会所属団体による地域活動も行われている。今回のアピモンディアには他に政府農業省、南ア昆虫学会、各大学、主要種子、果樹生産業者が関与している。近隣諸国からも多数が熱心に養蜂関係事業に参加している。

地域開発と養蜂事業

利用できる資源に乏しい農民の生存を確保し、生活を向上させることは、南ア経済と食料の安定を保障するのに不可欠なポイントである。養蜂振興は世界各地の途上国で、地域開発事業の重要な要素と見なされるようになった。持続可能な養蜂は資源に乏しい農民に以下の点で適している。初期投資は少ない、土地を所有していなくても可能、滋養に富む食品を作り、副収入も得られる、比較的容易な技術習得（最小限の基本は求められる）。

養蜂振興事業はアフリカ南部のザンビア、マラウィ、スワジランドの各国ではかなり以前から、またレソト、ボツワナ、ジンバブエ、モザンビーク、南アフリカで近年それぞれ実施されている。本大会にも南部アフリカ途上国共同体 (SADC) 諸国から多数の参加が期待される。

村落地域の養蜂は農民の利益となるだけでなく、地域全体にメリットがある。ミツバチ飼育から派生して、養蜂生産物の加工処理や販売など新しい雇用、さらに小中規模企業 (SMEs) 設立への可能性が広がる。これを目標として南アフリカ養蜂企業評議会はこれまでムプマランガ州、北部州、北西州、西ケープ州の村落地域で蜂を飼う農民対象に養蜂研修を実施し、大きな

成果を得てきた。養蜂に関する南アフリカの社会的問題の一つに、婦人は畜産の飼育を許可されないという点がある。他のアフリカ諸国では養蜂が婦人の雇用対策として、理想的であることが知られてきたが、それも婦人がミツバチを飼えるからである。養蜂生産物の選別、包装作業も、伝統的に婦人の仕事とされる作業に熟練していれば、うまくこなせる職種といえる。アピモンディア 2001 は世界各地から多数の専門家が集まる機会なので、彼らの貴重なアドバイスを得るためにも、村落社会の代表者にはぜひ多数ご参加頂きたい。

開催都市ダーバンと国際会議場

ダーバンは南アフリカ随一のリゾート地。南インド洋と岩山が迫るドラケンスバーグ山脈にはさまれた東海岸の景勝地であり、年間を通じて温暖な気候に恵まれる。大会参加者の宿泊には、観光客のための楽しみにあふれる「ゴールデンマイル」海岸沿いのホテルが用意された。ダーバンはアフリカへの主要な玄関口であり、ダーバン港は規模、取扱貨物量ともにアフリカ大陸で最大である。南アフリカ各地への道路網も整備されている。

会場となる国際会議センター (ICC) はダーバン国際空港から 30 分、リゾートホテルの並ぶ海岸からは数分のところにあり、最新設備と優れたサービスを誇る。展示会、ポスター発表、口頭発表、各種会議、ワークショップのための設備をはじめ、構内には銀行、ビジネスセンター、診療所、ギフトショップもある。

アピモンディア 2001 の開催

2001 年 10 月 28 日から 11 月 1 日にダーバン市の国際会議センターで開催されるアピモンディア 2001 は、趣味の養蜂家から大規模な養蜂企業、ポリネーター、生産物加工業者、養蜂器具業者、アピセラピー関係者、昆虫学者、研究者、農民、生産者、さらに種子、果樹業界、開発事業立案者、指導者、普及事業担当者など多くの方に役立つ、興味深い催しとなろう。

表 1 会議日程詳細

	午 前 0800-1200	午 後 1300-1700	夕方・夜
10月 28日 (日)	1000-1600 登録受付 1600-1800 開会式, 基調講演 1800-1930 歓迎レセプション		
29日 (月)	生物学／「養蜂におけるミツバチ系統特性の役割」 養蜂経済／アフリカ蜂化ミツバチがもたらした困難と成功 養蜂技術／薬用ハチミツの加工処理／オーガニックハニーの生産	地域開発養蜂／「貧困に立ち向かう養蜂：普及事業」 ミツバチの病害敵／養蜂商取引が病害敵拡大に及ぼす影響 アピセラピー／アビセラピーと養蜂生産物	総 会
30日 (火)	ミツバチの病害敵／「バロア病の診断と防除, アフリカの新しい病気」 地域開発養蜂／アフリカの養蜂の発展 養蜂植物と花粉媒介／アフリカの蜜源植物	養蜂技術と蜂具／「養蜂家, 趣味の養蜂家各々に適した養蜂技術」 生物学*／単独性の蜂 アピセラピー／常備薬としてのハチミツ 養蜂経済 / 新しい養蜂生産物	1900 スライド映 写会
31日 (水)	養蜂植物と花粉媒介本会議／「ミツバチの採餌と遺伝子組換作物」 養蜂技術と蜂具特別集会／フェロモンの利用 生物学／アフリカ亜種 村落開発養蜂 / 貧困に立ち向かう養蜂：普及事業		1700 市長招待レ セプション
11月 1日 (木)	養蜂経済／「養蜂生産物の国内, 国際取引」 養蜂植物と花粉媒介／(亜)熱帯果樹のポリネーション／近代のハイブリッド種子生産 生物学／南アフリカのケープミツバチ現象	アビセラピー／「アビセラピーの臨床使用」 養蜂技術と蜂具／女王蜂生産管理 ミツバチの病害敵／アメリカ腐蛆病：早期発見と防除対策	1700 閉会式

学術プログラム

各分科会の本会議, 各セッションがテーマを決めて準備されている。プログラムとスケジュール詳細を表 1 に示した。

ポスター発表

ポスター形式の発表 (950×1200mm) は全期間掲示し, 著者との討論機会を設ける。

ハチミツ品評会

アフリカ南部各国で生産されたハチミツと蜂ろうの展示とコンテストを行う。蜜源植物は西ケープ州南部の fynbos honey, クワズールー・ナタール州で7年に1度だけ開花する hlwane (wild buckweed), 北部諸州で冬季に咲く aloe davyana, 東ケープ州の drogie, 各地のニセアカシア等に加え, オレンジ, ライチ, ユーカリ, ヒマワリ, 豆などである。南アフリカのハチミツを賞味する試食テーブルを準備する。商談も可。

学術展示

「アフリカ大陸のミツバチと養蜂」と題して, アフリカ在来のミツバチ 11 亜種がアフリカ各地の多様な生態, 気候環境にどのように適応, 進化したかを展示。アフリカに残る伝統的ハニーハンターの壁画や, 丸太, 樹皮, かご巣箱なども多く紹介する。

親睦プログラム

○オープニングレセプション (28 日)

開会式後アピエクスポ会場内でカクテルパーティー。南ア産ワインと軽食, エンターテインメントが用意される。

○優秀コンテスト参加作品上映会 (30 日)

○「アフリカ仕込み」の夕べ, ダーバン市長招待海岸バーベキューパーティー (31 日)

趣向を凝らして (双眼鏡, 日よけ帽, サファリ用品, アニマルプリント, ボーア戦争, 植民地風, アジア風, ズルー戦争風など) 参加いただきたい。ファッション大賞を選出する。会場はゴールデンマイル沿いの海岸公園大テント。

コンテスト

恒例のコンテストが以下の項目で行われ,

金、銀、銅賞と参加賞が贈呈される。a) 養蜂新開発技術、b) 新しいミツバチ生産物（所有権を持つオリジナルな製品に限る）、c) 販売促進用包装と宣伝用品、d) 養蜂をとらえた映画、ビデオ、スライド作品（プロ、アマ共）、e) 写真展示（装丁済み）（プロ、アマ共）、f) ミツバチと養蜂の教材、g) 同書籍、h) 同雑誌、i) 養蜂関連の切手収集、j) 同コレクション、k) 養蜂関連ウェブサイト（プロ、アマ共）、l) アピエクスポ 2001 出展の全ブースを対象にした「最優秀スタンド」。

コンテスト参加希望者は以下の諸点にも留意のうえ「コンテスト参加登録フォーム C」を 6 月 10 日までに提出する。

* 参加料：項目ごとに US\$20/E22/R110 の参加料を徴収する。支払いは会場で。

* 映画、スライド、ビデオ、ウェブサイト、写真、教材、雑誌、書籍は 6 月 10 日までに組織委員会必着で事前に送付する。その中から優秀作品を 10 月 30 日（火）に鑑賞する。

* その他の作品は 10 月 27 日（土）午後 2 時から 28 日（日）午後 2 時に会場内の受付提出。

自慢のハチミツ料理レシピ

主に参加同伴者を対象にハチミツ料理レシピを募集する。自慢のレシピを「コンテスト参加登録フォーム C」と共に提出し、予選通過の場合はダーバン市内で実際に調理していただく。世界からあつめたハチミツ料理レシピ集を制作し、大会期間中に公開。レシピはメートル法で表記、商品名は除くこと。

大会登録料

登録は大会案内の参加登録フォーム A を Fax 送付するか、大会ホームページ <http://www.apimondia2001.com> から行える。

大会登録料にはすべての学術プログラム、親睦行事、要旨集、バッジ、アピエクスポ 2001、学術展示、ハチミツ品評会、コンテスト会場への入場、Apiacta（アピモンディアの雑誌、本大会発表論文の一部を掲載予定）年間購読料 1 年分が含まれる。

大会登録	通常料金 (2001 年 5 月 16 日以後)		
通貨	米ドル	ユーロ	ランド
アピモンディア参加国 からの登録者	\$430	E480	R2400
アピモンディア非参加 国からの登録者	\$450	E500	R2500
同伴者*	\$180	E200	R1000
発表論文の CD-ROM	\$40 or E44 or R250		

為替レート：1 米ドル = R7.22, 1 ユーロ = R6.33

* 同伴者登録は学術プログラムへの参加不可。

同伴者登録料には開、閉会式への参加、プログラム、旅行案内、地図入りコングレスバッグ、バッジ、オープニングレセプション、バーベキュー、映写会への参加、29 日（月）の「アフリカの 1 日」全日ツアー参加、他のオプションルツアー参加権（有料）、ハチミツ料理レシピ集、アピエクスポ 2001、学術展示、ハチミツ品評会、コンテスト会場入場が含まれる。

アピエクスポ 2001

養蜂企業の商談、展示の場、アピエクスポ 2001 を開催する。最新の養蜂技術と器具、農化学製品、養蜂生産物、付加価値商品、さらに国や地域を紹介するブースが多く会議参加者を魅了する。会場は招待された一般参観者も入場できる。

展示ブースは 3×3m を 1 単位とし、壁面、企業名掲示ボード、電源（15A）、蛍光灯、いす 2 脚、円テーブル、錠付き戸棚、盛り花、会場清掃と警備料が含まれる。

また出展料（US\$1860/E2120/R10800）には 1 名分の大会登録料と 2 名分のティーサービスと親睦行事参加料が含まれる。

* アピエクスポ 2001 は大会登録者、同伴者と招待者に公開される。

* 出展者による会場内の販売、商取引は許可、奨励されている。

* 優れたブース展示には「最優秀スタンド」賞を贈呈。

* ブース申込者には輸入関連の詳細を記すマニュアルが用意されている。

大会案内請求先：

Apimondia 2001, Conference Planners,

PO Box 82, Irene 0062, South Africa
 Fax: +20(0)12 667-3681
 e-mail: confplan@iafrica.com
 website: www.apimondia2001.com

大会参加者のための観光と宿泊

大会期間中、会場 ICC と各ホテルから定員限定、ガイド付き、高級車両利用でオプション観光ツアーが催行される。ツアーおよび宿泊に関する問い合わせは下記へ。

Recreational Tours,

PO Box 52277, Saxonwold, 2132 4320
 South Africa
 Tel: +27(0)11 788-1654,
 Fax: +27(0)11 880-4928,
 E-mail: safaris@iafrica.com

日本からの参加ツアー

日本からの第 37 回国際養蜂会議参加旅行も企画されている。詳細、問い合わせは下記へ。

(株) アサヒトラベルインターナショナル
 担当: 石渡ダグ、西川里香

tel: 03-3291-4041
 fax: 03-3233-2471

南アフリカ準備視察報告

アフリカ大陸で最初のアピモンディア大会が新千年紀のはじめに開かれる。世界の養蜂家とミツバチ研究者の皆様を南アフリカ・ダーバン市で行われる第 37 回国際養蜂会議アピモンディア 2001 にお招きしたい。南アフリカには養蜂家の興味をひく多くのポイントがある。本来の生息地にいるアフリカバチ、特異な性質で知られるケープミツバチ、導入されたミツバチ種、盛んなポリネーション利用、拡大するハチミツ生産、ハニーハンティングから大規模な企業経営へと、養蜂業界は急速に多様に変化する現代社会の求めに適応し発展している。

国際養蜂会議は研究者、養蜂業者、ミツバチ生産物業者、村落開発関係者、趣味の養蜂家など養蜂に関係するすべての人のための催しである。ミツバチ関連の催しに加えて、サファリでねらうビッグファイブ（ライオン、ヒョウ、ゾ

ウ、野牛、サイ）など南アフリカ観光も楽しめる。ダーバン市のあるクワズールー・ナタール州はズールー族の地であり、誇り高い彼らの豊かな文化にも接していただきたい。

学術プログラムは、南アフリカの研究開発状況を反映した内容の世界大会となるよう、開催国組織委員会とアピモンディア分科会が準備を進めている。本会議では招待講演者が最新の研究を報告する。同時にワークショップ、セミナーなど少人数の集まりも多数企画されている。

アピエクスポ 2001 には世界中から出展される。世界各国でのビジネスに興味を持つ企業はぜひこの南アフリカの博覧会に参加いただきたい。アピモンディアは世界の養蜂関係者が知り合う機会を提供することを大切な使命と考え、ミツバチに心を寄せる人々の友情の輪を広げていけるよう努めている。開会式ではズールー族の戦士による伝統の歌と踊り、参加各国旗のパレードをご覧いただく。引き続いてのオープニングレセプションでは懐かしい顔と再会し、新しい友とあいさつしよう。ダーバン市長招待のバーベキューパーティーは“アフリカ仕込み”をテーマにした衣装でご参加ください。南ア風のもてなしと素晴らしいワインがあなたを待っている。これらソーシャルプログラムはすべて登録料に含まれる。養蜂新技術からミツバチ手収集まで 12 項目で行われる恒例のコンテスト、自慢のハチミツ料理レシピ集、養蜂映像上映会、アフリカ産ハチミツの展示と味見、ポスター発表と「アフリカ大陸のミツバチと養蜂」についての学術展示と盛りだくさんである。

南アフリカが安全か懸念する向きもあろうが、先月の訪問では一切不安を感じる場面はなかった。ダーバンの国際会議場では最近 1.3 万人を集めて第 13 回国際エイズ会議が開かれたが、まったく無事であったという。

(アピモンディア会長 A.S. ヨゲンセン)

編集委員から

今号の刊行が遅れたため、本文中に記載されている申し込み期限などには、すでに締め切られたものも含まれている。悪しからずご了承ください。